# 令和6年度　大田区立東六郷小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和7年2月28日

・教育目標 「思いやりと正義感のある子」「自ら学び考える子」「健康で明るい子」 開校63周年
・児童数　372名　　学級数　14学級
・校内研究主題 「創造力を育む『おおたの未来づくり』の教材開発」

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 方向性 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄<br>評価 | 人数 | コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個別目標1<br>予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します | 社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。 | ①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 児童アンケートによる次の項目において「とてもそう思う」「そう思う」の合計回答の割合<br>①総合的な学習の時間や生活科の学習などで、めあてを立てて活動に取り組むのが好きだ。<br>②友達と一緒に活動したり、お互いの考えを話し合ったりすることが楽しい。<br>③本やインターネットを使って、自分の知りたいことを調べることができる。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 3 | 主に「おおたの未来づくり」の実践研究として総合的な学習の時間、生活科で取り組んできた。<br>①学習課題解決に対しての児童の関心意欲の肯定的評価は75．9%、②協働学習への関心意欲は92．4%、③情報活用能力の自己評価は79．3%であった。<br>主体的な取組よりも、友達と一緒に取り組むことに面白さ・楽しさを感じている。これは、学校ならではの学習活動である。<br>今後は、自分の考えに自信をもち、試行錯誤する粘り強さを育てていきたい。調べ学習の能力については、タブレットによる情報活用能力をさらに高めていく必要がある。 | A | 4 | ・おおたの未来づくりの研究授業を見せていただきました。こどもたちはとてもよく調べ、発言もよくされていましたが、調べたことの感想がなかったことにちょっと残念でした。<br>・タブレット（インターネット）での情報活用も大事だが、地域の人々（特に大人）との交流によって聞き出す力も必要だと思います。<br>・協働学習への関心意欲が92．4%とは凄いですね。さらに意欲を伸ばしていければと思います。<br>・未来を予測するのはとても困難ですが、達成できてもできなくても目標を挙げることが大切です。<br>・情報活用能力では、誤情報を取り除く方法が必要である。 |
| | | ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | B | 5 | |
| | | ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | C | 0 | |
| | | ④縦割り班活動や異学年合同の活動の機会を設け、他社と協働していく力の育成と共に、自己肯定感の醸成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 4 | | | | | D | 0 | |
| 個別目標2<br>世界と繋がる国際都市を担う人材を育成します | 英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。 | ①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 児童アンケートによる次の項目において「とてもそう思う」「そう思う」の合計回答の割合<br>①外国語の学習などで、英語を話すことを頑張っている。<br>②総合的な学習の時間や社会科、生活科などで、地域や郷土のことを知るのは楽しい。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 3 | ①外国語教育への関心意欲は88．2%であった。外国語については、実践的な活用能力を育てたいと考え、英語カフェの取り組みを始めたが、参加率は低かった。今後、外国語を話す必然性のある場を設定していく必要がある。<br>②地域学習への関心意欲についての肯定的評価は76．3%であった。地域学習は、今年度積極的に実践した。来年は「おおたの未来づくり」も本格実施となり、関心意欲もさらに高まると考える。 | A | 3 | ・外国語を覚えるだけでなく、相手の文化、他国の文化などを学び、触れる機会を親子共に増やすことも必要だと思います。<br>・外国語教育はこれからの生活の中で実践的になっていくでしょう。育てていただきたいですね。<br>・年少の時から外国語に携わることが大切だと思います。<br>・中学校・大学では、先生の英語を真似して発声するのが難しかった。英語に慣れ親しむには、お手本が大事である。 |
| | | ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | B | 6 | |
| | | ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | C | 0 | |
| | | | | | | | | | D | 0 | |
| 個別目標3<br>一人ひとりが個性と能力を発揮する<br>たための基礎となる力を育成します | 児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。 | ①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 児童アンケートによる次の項目において「とてもそう思う」「そう思う」の合計回答の割合<br>①授業中、勉強がよく分かる<br>②道徳科で、考えたり話し合ったりするのが好きだ。<br>③「早寝早起き朝ごはん」を今も続けている。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 2 | ①道徳授業に対する関心意欲態度について肯定的な自己評価は70．3%であった。今後も「考える道徳」を意識した授業づくりを行うとともに、道徳授業地区公開講座を通じて道徳の大切さを発信していく。<br>②授業中勉強がよく分かるの肯定的評価は、87%であった。今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業力を向上していく。<br>②早寝早起き朝ご飯は74．1%であった。早寝早起き朝ご飯の達成率は5月76．3%、10月71%で、年間を通して定着していることが分かる。さらに定着率を高めていきたい。 | A | 4 | ・道徳に対して児童に発信していると思われますので成果評価は3でもいいのではないか。<br>・道徳の授業も大事だが、教師や周りの大人の言動がこどもたちの心の発達に与える影響は大きい。日常からの会話を通じて育む必要がある。<br>・個性をつぶさないようお願いします。<br>・朝食はとても大切だと思います。保護者の方にももっと協力していただきたいと思います。<br>・最近のこどもたちの朝食は、コンビニで買って食べることが多いようですね。 |
| | | ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | B | 1 | |
| | | ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 2 | | | | | C | 4 | |
| | | ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 2 | | | | | | | |
| | | ④　朝読書・読み聞かせ・語彙の学習を朝学習の時間で行い、言葉の力を豊かにする教育を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | D | 0 | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 個別目標4<br>学校力・教師力を向上させます | 校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。 | ①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 3学期の学校公開アンケートによる次の項目において「よくてはまる」「あてはまる」の合計回答の割合<br>①こどもたちにとって、分かりやすい授業であったか。<br>②こどもたちは学習活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしていたか。<br>③授業の中で、教師がこどもたちの良いところを認めたり、肯定的に受け止めたりする場面があったか。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 4 | 各項目の肯定的な自己評価は次の通りであった。今後もこの視点を大事にして授業力の向上に努める。<br>①「こどもたちにとって、分かりやすい授業であったか。」1学期96．6%　2学期96．6%　3学期99．2%<br>②「こどもたちは学習活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしていたか。」1学期97．7%　2学期95．89%<br>3学期　97．5%<br>③「授業の中で、教師がこどもたちの良いところを認めたり、肯定的に受け止めたりする場面があったか。」1学期98．9%2学期94．5%<br>3学期　98．4% | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>3<br>0<br>0 | ・タブレットを使った授業などはこどもたちにとって有意義だと思うが、教師のマンパワーが足りないと思う。副担任や支援員と2～3人で行ってもよいのではと考えます。<br>・引き続き力を向上するのに頑張っていただきたいと思います。<br>・こどもは大人にない素晴らしい思考回路をもっています。伸ばしてほしい。 |
| | | ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | | | | | |
| | | ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 | 4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。<br>1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。 | 2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 個別目標5<br>自分らしくいきいきと生きる<br>ための学びを支援します | 困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。 | ①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 「学校教育活動に関する評価」による次の項目において「とても思う」「思う」の合計回答の割合<br>①教職員にこどものことについて相談しやすい。<br>児童アンケートによる次の項目において「楽しい」「どちらかというと楽しい」の合計回答の割合<br>②ボッチャトーナメントは楽しい | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 3 | 「①教職員にこどものことについて相談しやすい。」について肯定的評価が81．2%で、昨年度より3．6%減少した。今後も相談しやすい信頼関係を築いていきたい。スクールカウンセラーも今年度から2名配置になった。学校の相談窓口の一つとして、重要な役割を果たしている。<br>②ボッチャ大会の肯定的評価は、85。1%であり、児童は楽しみながら取り組んでいる。<br>この取り組みは、東京オリンピック・パラリンピックレガシーアワード校として行っている。スポーツ振興、障害者理解教育として今後も取り組んでいく。 | A<br>B<br>C<br>D | 4<br>5<br>0<br>0 | ・様々な個性をもつこどもたちに対し、発達障害やLGBTQについて学習させたことは良いが、大人側も学び理解することも必要です。<br>・児童一人ひとりの状況に合わせるというのは難しいと思います。大変ですがよろしくお願いいたします。<br>・児童との対話を増やせないか。<br>・病気のある子への理解教育も必要である。 |
| | | ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 | 4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満の教員が回答した。<br>2:60%以上80%未満の教員が回答した。<br>1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | | | | | |
| | | ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 4 | | | | | | | | | |
| | | ④ボッチャ大会、城南特別支援学校との交流等を通して、オリンピック・パラリンピック教育を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | | | | | |
| 個別目標6<br>柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります | 学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。 | ①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | 「学校教育活動に関する評価」による次の項目において「とても思う」「思う」の合計回答の割合<br>①地域の人材や施設を教育活動に生かしている。<br>②こどもたちの安全性を高める指導や訓練を行っている。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 3 | ①地域人材の活用は、肯定的評価が82．5%と昨年度より4．9%増加した。主に大田区独自教科「おおたの未来づくり」の実践研究として総合的な学習の時間、生活科で取り組んできた。来年度から大田区独自教科の本格実施となる。さらに充実させていきたい。<br>②子どもたちの安全性を高める指導や訓練を行っているについては、84．5%で、昨年度より2．7%減少した。今年度の1月には、3・4年生の総合的な学習の時間で防災をテーマにした単元開発を行った。来年度はさらに充実させていく。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>4<br>0<br>0 | ・「おおたの未来づくり」では、地域の協力が不可欠なので、学校としても地域の企業などへ周知していく必要がある。<br>・防災は大切です。こどもの頃からの指導が自然に身に付くと思います。引き続きよろしくお願いいたします。<br>・ICTは若い人にはかないません。 |
| | | ②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 4 | | | | | | | | | |
| | | ③問題解決学習やセーフティ教室の中で、発達段階に応じたICTモラル教育を行っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | 3 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 個別目標7<br>学校・家庭・地域の連携・協働による<br>地域コミュニティの核としての学校をつくります | 地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。 | ①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | 「学校教育活動に関する評価」による次の項目において「とても思う」「思う」の合計回答の割合<br>①学校は、地域・保護者からの質問や要望に対して丁寧に対応している。<br>②登下校の安全が守られていると感じている。 | 4:90%以上<br>3:80%以上<br>2:70%以上<br>1:70%未満 | 2 | ①地域・保護者からの要望に応えているについては、83．2%と、昨年度より1.6%増加した。来年度はコミュニティスクールに移行し、地域との連携をさらに深めていきたい。<br>②登下校の安全については、72．2%と、昨年度より9．4%減少した。地域の方には日頃よりできる限りのご協力をいただいている。令和5年度から、春と秋の全国交通安全運動週間にPTAの見守り活動を行っていただいている。今後は、交通安全教育を充実させ、児童の危機管理意識を高めていきたい。 | A<br>B<br>C<br>D | 5<br>4<br>0<br>0 | ・こどもたちの危機管理を高めていただきたいです。<br>・地域内での情報共有が必要である。（不審者対応などについて、スピーディーな情報連携が求められる。）<br>・町会とのコミュニケーションはたくさんとっていただきたいと思います。<br>・町会も協力します。<br>・昔遊びを教員全体で進めてみてはどうか。<br>・いつでも連絡いただきたい。地域は学校とのコミュニケーションをもっととりたい。 |
| | | ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| | | ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。<br>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す